

若さとオタクのエネルギーを懐かしむ

教務部 大谷晃二

50年前の中学生頃、将来特撮映画の制作者になりたいと思っていた私の憧れの作品はTVの初代「ウルトラマン」。その再放送が毎日夕方5時から始まると知り、帰宅部の私はなんとか全 39 話の記録をとろうと考えた。再放送開始まで一週間。家庭用ビデオデッキは登場しはじめた頃で、とんでもなく高い。そこで、テープレコーダーで全話録音し、主要な場面を写真撮影することにした。

ところが、当時の大谷家にはカメラがない。これは友人（兄がプロカメラマン）から中古カメラを安く買って解決。当然、当時はフィルムカメラ。近所の写真屋さんに TV 画面の撮影方法を聞くと「君のカメラではテレビは撮れないよ」と。当時のブラウン管テレビをきれいに撮影するには、シャッタースピードを 1/60 秒にしなければならないと。ブラウン管テレビは、何本もの細い光の線、走査線を電子ビームが高速で点滅して走り、1/60 秒で画面全体の走査線を点滅し終える。私たちはその光の残像で 1 画面を見ているのである。つまり、シャッタースピードを 1/60 秒で撮影すれば、画面全体に映像が映るが、これよりも早いと走査線の光が点灯していないところは黒くなる。遅すぎると画像はぶれる。私のカメラにはシャッタースピードを設定する機能がなかった。幸い、手動でシャッターの開放時間を調節できたので、シャッターを 1/60 秒で押す特訓をした。もう一つの課題は、夕方の明るい時間帯、部屋がブラウン管に写りこんでしまう。純和風の私の部屋にカーテンはない。墨汁を塗った新聞紙を窓や壁に貼り、真っ暗にした。

録音では、私の安物のテープレコーダーには、外部音声入力のジャックがなく、内臓マイクのみ。ひたすら沈黙して録音するしかない。いよいよ暗闇の部屋で物音を立てずに、録音ボタンをオン、シャッターを切る。しかし、最大の障壁は母親だった…。学校では再放送の2か月間、居残りをさせられるようなへまはできない。しかし、何かの委員会で居残りとなった時、私「今日はウルトラマンを見ないといけません。」、先生「?」、ウルトラマンについて力説して先生をあきれさせて押し切った。

映画シン・ウルトラマンの監督樋口真嗣さんは私より 1 歳下、シン・ゴジラの庵野秀明さんは、私の3つ上と同世代である。先日、ウルトラマン生誕 60 周年の特集番組をNHKで見て思い出した。



色決め集会 7/9(木)

学園祭(体育祭)でどの組が何色になるかを決定しました。



プレ球技大会 7/10(金)

仲間と声を掛け合いながら競技に取り組み、会場には笑顔と歓声があふれました。



人権教育ホームルーム

7/14(火)

学年ごとのテーマに沿って、人権について考えるホームルームを実施しました。



住所 松江市西尾町540番地1
TEL 0852-39-0216 (事務室)
0852-39-0217 (職員室)
FAX 0852-39-0829

発行元 松江市立皆美が丘女子高等学校

URL <https://minamigaoka-girls-hs.matsue.ed.jp/>

